

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ブライダルプランニング 1		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	講義	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダル業界、ホスピタリティ業界への理解を深め、ウエディングプランナーの役割と業務全般について学習する。日本の結婚式の歴史、流れ、スタイル等の基礎知識を身に付ける。				
◆概要	ウエディングプランナーの業務の流れに従い、プランナーに必要な基礎知識と接客技法、業界の現状について学ぶ。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ブライダルの業態、長野県の専門式場、関連企業、パートナー企業、ブライダルスペシャリストの職種				
第2週					
第3週					
第4週	ブライダル市場と実態、地域性				
第5週					
第6週	ブライダルの歴史と慣習 六輝 お見合い 結納 欧米の慣習				
第7週					
第8週					
第9週	中間試験				
第10週	2部制披露宴と1.5次会、祝儀剤と会費制 新郎衣裳				
第11週					
第12週	新婦衣裳 ドレスライン ブーケ 衣裳業務				
第13週					
第14週	プランナー業務 業務の流れ進行スケジュール				
第15週					
第16週					
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
事後学習として復習を必ず行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のウエディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン、ブライダル雑誌、DVD					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(授業姿勢) 40%					
・ 中間試験、期末試験による評価 50%					
6. その他					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、業界での事例を交えながら、婚礼に関する基礎知識やウエディングスペシャリストの業務全般の流れや接客方法、婚礼施行方法を指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	大槻 俊子		
科目名	パーティープランニング1	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	9月校内挙式またはイベントの打ち合わせ～当日の進行管理までを行い、企画力、提案力と挙式の施行技術を身に付ける。				
◆概要	校内リアルウェディングまたはイベントの企画、打ち合わせ、アイテム作成、当日施行・進行管理を行い結婚式当日までの業務の知識を深める。				
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>					
第1週	今年度の挙式施行またはイベントについて概要説明 過去の挙式DVD鑑賞				
第2週	担当マニュアルの確認 DVD鑑賞 役割について 校内挙式またはイベントグループワーク(テーマ、進行、演出)				
第3週	校内挙式またはイベントグループワーク(テーマ、進行、演出)				
第4週	グループごとに企画発表、企画再考				
第5週	グループごとに企画発表、企画再考				
第6週	グループごとに企画発表 進行決定				
第7週	アイテム制作(グループごとに各アイテムの制作),経過報告				
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週	アイテム制作、挙式練習				
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
第18週	最終調整、リハーサル				
<b>3. 履修上の注意</b>					
校内挙式希望者が居ない場合は、ショーや校内コンテストなど、ブライダルに関するイベントの企画・施行を行う。。授業は1、2年合同とする。5～6人のグループワークが中心のため、積極的、自主的に取り組むこと。また、放課後等の自主的な練習が必要。挙式やイベントは全員参加とする。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
ノートパソコン					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価10% ・授業の取り組み40% ・挙式当日の取り組み、完成度50%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験:専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼及び関連イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	西村 明美 (たちばな)	
科目名	和装コーディネート		必修・選択	必修	
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	着付けマナーを心得た美しい着付けときものに関する知識の習得を目標とする				
◆概要	着付けを通してきものに触れていただき、基本的なきものの知識を学びます				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/11)	授業スタートにあたり挨拶・きもの名称、着付け小物の説明・ボディに着せながら補正の説明実際に補正を行う				
第2週(4/18)	補正・長襦袢の着付け・長襦袢のたたみ方				
第3週(4/25)	振袖の説明・補正・長襦袢の着付け・長襦袢のたたみ方				
第4週(5/9)	補正・長襦袢、振袖の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方				
第5週(5/16)	補正・長襦袢、振袖の着付け・長襦袢、振袖のたたみ方				
第6週(5/23)	季節によるコーディネイト・留袖、訪問着の説明・長襦袢の着付け・帯の持ち方・帯 $\times$ 、帯揚げの結び方				
第7週(5/30)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第8週(6/6)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第9週(6/13)	<b>中間試験</b> ペーパーテスト・実技:補正、長襦袢の着せ方、たたみ方				
第10週(6/20)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第11週(6/27)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第12週(7/4)	浴衣の着付け(自分で着る)・浴衣の所作・和食のマナー *2コマ				
第13週(7/11)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第14週(7/25)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第15週(8/29)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第16週(9/5)	補正・長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
第17週(9/12)	<b>期末試験</b> 実技:補正、長襦袢、振袖の着付け・太鼓結び・長襦袢、振袖のたたみ方				
3. 履修上の注意					

女子は二人一組、男子はボディを用いて実習を行う。  
第12週ゆかた着付けの日程は変更になる可能性もある。

#### 4. 使用教材(テキスト等)

授業に合わせて、必要時に資料を用意

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 相対評価

- ・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 40%
- ・ 中間・期末試験 50%

#### 6. その他

担当者実務経験: 和装ショップ、着付け教室にて着付け講師として勤務する教員が、実務経験から、着付け時の接客マナーや正しい着付けの仕方等を、近年の和装の傾向を交えながら指導する科目である。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	山田 佳代子		
科目名	美容実習（メイク）	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	メイクアップ化粧品や、メイクアップ道具の特徴を理解します。又、色の持つ効果を活かし、衣装のイメージに合ったメイクアップを時間内に仕上げることを目標とします。				
◆概要	多種あるメイクアップ化粧品をを効果的に使い美しく仕上げられること。そしてメイクアップ道具を使いこなせるよう学び、メイクアップのイメージを大きく左右する色物をバランスよく配色できるようにします。実習は相モデルで行い、最終的にモデルの選んだドレスに合ったメイクアップデッサンをし、時間内にメイクアップを仕上げることを目標とします。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週(4/13)	・自己紹介 ・メイクの必要性 ・最終目標の確認 ・肌アンケート ・道具の特徴と説明 ・セッティングの仕方 ・施術中のマナー ・ベースメイクテクニック説明 ・相モデル実習				
第2週(4/20)	・説明&実習(・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー)				
第3週(4/27)	・説明&実習(・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ)				
第4週(5/11)	・説明&実習(・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ)				
第5週(5/25)	・説明&実習(・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ ・チーク)				
第6週(6/1)	・説明&実習(35分計る ・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ ・チーク)				
第7週(6/8)	・説明&実習(35分計る ・ベースメイク ・アイブロー ・アイシャドー ・アイライナー ・アイラッシュカーラー ・マスカラ ・リップ ・チーク)				
第8週(6/15)	中間試験(35分間 ・ベースメイク～チーク)				
第9週(6/22)	・ドレス決め ・メイクデッサン(メイク&ヘアー) ・実習(色合わせ)				
第10週(6/29)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第11週(7/6)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第12週(7/13)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第13週(7/20)	・それぞれのデッサンを元にメイクする(イメージに合わせて進める)				
第14週(7/27)	・メイクリハーサル(前半) ・メイク&ヘアーセット練習				
第15週(8/31)	・メイクリハーサル(後半) ・メイク&ヘアーセット練習				

第16週(9/7)	期末試験(前半)・試験・ヘアーセット・ドレス着用・撮影会
第17週(9/14)	期末試験(後半)・試験・ヘアーセット・ドレス着用・撮影会
<b>3. 履修上の注意</b> メイクアップ道具は人を美しくするツールなので、常に清潔でなくてはならない。その為、道具の取り扱いやメンテナンスには気を配ること。又、人の肌に直接触れる為、爪の長さには配慮が必要です。そして、実習後のクレンジングやメイク直しについては、実習道具を使うことなく、自身のメイク道具を持参し行うこと。※実習はノーメイクで行います。化粧下地(日焼け止め)まで付けて来る。	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> ・メイク道具一式・タオル・鏡・メイクドール	
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準:絶対評価 ・出席による評価 10% ・授業への取り組み(授業態度・実技姿勢) 20% ・中間(実技)・期末試験(実技&デッサン) 70%	
<b>6. その他</b> 担当者実務経験:化粧品メーカーでビューティーカウンセラーとして勤務経験のある教員が、現場での経験により、接客時のマナーやブライダルメイク、セルフメイクを指導する科目である。	

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	山田 佳代子		
科目名	サービス概論	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	<p>「サービス接客実務検定試験 2級」の合格 (11月上旬)                  「サービス接客実務検定試験準1級」面接試験の合格(12月中旬・希望者のみ)                  サービス接客実務について理解を持ち、一般的なサービスを行うのに必要な知識、技能を身に付ける。サービスに対しての心構えや相手への言葉遣い、態度・振る舞い方などに関する知識、技能などを学び、相手に満足を与えられる資質を持ち、実際に行動出来る知識や技能を身に付けます。</p>				
◆概要	<p>ビジネスの場において、相手が満足できるようなおもてなしのサービスを提供出来るよう、サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、言葉遣い、態度・振る舞いを勉強しながら、サービスに対する考え方や行動を学び、おもてなしの心とかたちを理解します。</p>				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週(4/13)	サービス接客実務検定試験概要 Ⅰ、サービススタッフの資質				
第2週(4/20)	Ⅱ、専門知識				
第3週(4/27)	Ⅲ、一般知識 Ⅳ、対人技能(人間関係・接客知識)				
第4週(5/11)	Ⅳ、対人関係(話し方・服装)				
第5週(5/25)	Ⅴ、実務技能(問題処理・環境整備・金品管理) サービス接客検定2級 過去問 (解答・解説)				
第6週(6/1)	Ⅴ、実務技能(金品搬送・社交業務) サービス接客検定2級 過去問 (解答・解説)				
第7週(6/8)	サービス接客検定2級 過去問 (解答・解説)				
第8週(6/15)	中間試験 サービス接客検定2級問題 ・ サービス接客検定準1級面接試験概要				
第9週(6/22)	サービス接客検定準1級面接試験対策・基本言動 ・ サービス接客検定2級 過去問				
第10週(6/29)	サービス接客検定準1級面接試験対策・接客応答 ・ サービス接客検定2級 過去問				
第11週(7/6)	サービス接客検定準1級面接試験対策・接客対応 ・ サービス接客検定2級 過去問				
第12週(7/13)	サービス接客検定準1級面接試験対策・実演実習 ・ サービス接客検定2級 過去問				
第13週(7/20)	サービス接客検定準1級面接試験対策・実演実習 ・ サービス接客検定2級 過去問				
第14週(7/27)	サービス接客検定準1級面接試験対策・実演実習 ・ サービス接客検定2級 過去問				

第15週(8/31)	サービス接遇検定準1級面接試験対策・実演実習 ・ サービス接遇検定2級 過去問
第16週(9/7)	サービス接遇検定準1級面接試験対策・実演実習 ・ サービス接遇検定2級 過去問
第17週(9/14)	期末試験 サービス接遇検定2級問題
<b>3. 履修上の注意</b>	
課題が出た場合は、翌週の授業までに取り組む事。 提出物がある場合は、翌週の授業開始時に提出する事。	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>	
サービス接遇検定受験ガイド2級 過去問題はプリントを配布	
<b>5. 単位認定評価方法</b>	
評価基準:絶対評価	
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 20%	
・ 中間・期末試験及び検定取得状況 70%	
<b>6. その他</b>	
サービス接遇実務検定試験の実施会場は以下の通り。 2級:校内で団体受験 準1級:東京・名古屋・大阪などのいずれかを選択(交通費は実費)	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。



学科 ＜専攻＞	ブライダルホテル学科	担当者	小林千尋		
科目名	キャリアプランニング1	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	希望する業種・職種で職を得るために、効果的で適正な就職活動を行うべく、実務的な準備(履歴書作成など)とキャリア教育(各種自己分析など)を通じて実践的なレベルを目指す。				
◆概要	自己分析を通じて自分のゴールを再度確認する。履歴書は自らの歴史と自分自身をPRするものなので、広義のとなる。また、実際の就職活動により密着した自己PRや仮の志望動機も作成してみる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	「キャリア」とは、2年間の心構え、卒業生の内定先・就活について、「振り返り」				
第2週	ライフライン分析とキャリアパス				
第3週	「職業興味と職業適性」				
第4週	履歴書作成① 履歴書とは、履歴書左側を記入・作成				
第5週	履歴書作成② 履歴書右側を記入・作成 「ジョハリの窓」				
第6週	履歴書作成③ 「エゴグラム」 自己PR作成				
第7週	履歴書作成④ 「能力と適性」 自己PR作成				
第8週	履歴書作成⑤ 「良いところさがし」 自己PR作成				
第9週	中間テスト 模擬履歴書の作成				
第10週	企業研究①こんな仕事をしてみたい、雇用条件は				
第11週	企業研究②(求人票を使って)求められる人材とは				
第12週	履歴書作成⑥ 仮志望動機の作成				
第13週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成				
第14週	履歴書作成⑦ 仮志望動機の作成				
第15週	一般教養とSPI				

第16週	一般教養とSPI
第17週	期末テスト 履歴書の作成
3. 履修上の注意 筆記用具を持参	
4. 使用教材(テキスト等) プリント教材	
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容	
6. その他	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	高田 千衣	
科目名	情報リテラシー1		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	Windows操作およびタッチタイピングがスムーズできる。 マイクロソフトWORD操作およびビジネス文書の作成ができる、マイクロソフトEXCEL操作ができる。 日本情報処理検定協会主催の「ワープロ検定2級」以上の検定合格を目標とする。				
◆概要	タッチタイピング、Windows操作、Word操作、Excel操作等のスキルを身に付ける。7月に個々の習熟度に応じた級のワープロ検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	Windows操作、ファイル管理、設定/カスタマイズ、タッチタイピング、Word操作				
第2週	ワープロ検定3級程度の問題解法 個別問題演習				
第3週	ワープロ検定3級程度の問題解法 小テスト、個別問題演習				
第4週	ワープロ検定準2級程度の問題解法 個別問題演習				
第5週	ワープロ検定2級程度の問題解法 個別問題演習				
第6週	ワープロ検定問題演習、検定申込 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第7週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第8週	中間試験 ワープロ検定準2級程度の問題				
第9週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第10週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	ワープロ検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第12週	問題演習およびワープロ検定 文書デザイン検定3級程度の問題解法				
第13週	文書デザイン検定3級程度の問題解法 ワープロ検定準1級程度の問題解法				
第14週	文書デザイン検定3級程度の問題解法 ワープロ検定1級程度の問題解法				
第15週	文書デザイン検定3級程度の問題解法、検定申込 ワープロ検定問題演習、Excel基本操作				
第16週	文書デザイン検定3級程度の問題解法 ワープロ検定問題演習、Excel基本操作				

第17週	期末試験 ワープロ検定2級程度の問題
<b>3. 履修上の注意</b> 授業課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日まで提出する	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> マイクロソフトWord/Excelを使用 授業配布プリント、検定模擬問題プリント、検定過去問題プリント	
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準: 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注	
<b>6. その他</b> ※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	Sean A. Leischner	
科目名	実務教養1(英会話)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテルリエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣してください。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	挨拶、自己紹介				
第2週	メッセージのお預かり+ゲストからの問い合わせ①				
第3週	メッセージのお預かり+ゲストからの問い合わせ②				
第4週	宿泊予約、到着日、泊数など				
第5週	宿泊続き、満室の場合の対応など				
第6週	客室へのご案内、ホテル内の施設、滞在目的など				
第7週	フロント業務:チェックイン①				
第8週	中間試験				
第9週	フロント業務:チェックイン②、販売、営業				
第10週	フロント業務:チェックアウト、ゲストからの苦情				
第11週	フロント業務:すべての復習				
第12週	客室:いろいろサービス				
第13週	フード&ビバレッジ:朝食①				
第14週	フード&ビバレッジ:朝食②				
第15週	すべての復習				
第16週	ホテルのロールプレイ				
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
積極的に発言すること					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
Hotel & Hospitality English (Collins)					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準:絶対評価					

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| ・出席による評価 15%     | ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15% |
| ・課題発表（中間・期末） 70% |                           |

6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	竹内 遥	
科目名	衛生学		必修・選択（注 記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予 定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	食品衛生、公衆衛生、安全衛生に関する知識と技術を習得し、基本的な仕組みを理解し適切な衛生管理を行う能力を身に付ける。また、ホテル実務技能検定初級および上級、レストランサービス技能検定3級の衛生法規に関わる問題演習を行う。				
◆概要	飲食店で食品衛生を十分に行うために食品取扱者は、多数の消費者への健康を支配する食品を取り扱っているということに自覚し、非衛生的な取扱いによって人々の生命の危険を与えるおそれがあることを認識し、食品衛生に関する知識を十分に持ち、衛生的な取り扱いについて学ぶ。また、公衆衛生の意義、「労働安全衛生法」をもとに安全衛生についても学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【食品衛生】 食品衛生の定義と目的				
第2週	【食品衛生】 食品衛生行政の仕組み				
第3週	【食品衛生】 食中毒予防の三原則				
第4週	【食品衛生】 食中毒①				
第5週	【食品衛生】 食中毒②				
第6週	【食品衛生】 寄生虫、衛生害虫				
第7週	【食品衛生】 腐敗及び変敗 保存 洗浄 殺菌及び消毒				
第8週	【食品衛生】 調理施設の衛生管理				
第9週	中間試験				
第10週	【公衆衛生】 公衆衛生の意義 公衆衛生行政の仕組み 保健所の事業				
第11週	【公衆衛生】 感染症の予防 危害のある食品				
第12週	【食品衛生法】 危害のある食品				
第13週	【食品衛生法】 営業の許可 管理 表示 モニタリング 事故発生時の対応 行政処分罰則				
第14週	【安全衛生】 労働災害				
第15週	【安全衛生】 危険有害性				
第16週	【安全衛生】 労働安全衛生に関する法令				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材（テキスト等） 西洋料理 料飲接客サービス技法〈日本ホテル・レストランサービス技能協会〉					
5. 単位認定評価方法 評価基準：絶対評価 ・出席による評価 15% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15% ・課題発表（中間・期末） 70%					
6. その他 担当者の実務経験 病院や特養での臨床経験・厨房経験のある教員が、食中毒や衛生管理について現場での体験や事例を交えて教授する。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル概論		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予 定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルで働くどの職種でも、年齢・性別・障害の有無に関わらず、あらゆるお客様の役に立ちたい、喜ばせたい、楽しませたいという気持ちがホテリエに必要な資質であることを理解する。				
◆概要	ホテル業務は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。ホテル業界についての理解を深め、1年次後期よりホテル専攻を選択するかの判断基準となるようなベーシック講義である。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	第1章ホテルのABC 1「ホテル」とは				
第2週	第1章ホテルのABC 2ホテルの提供する商品の構成要素 3ホテルの分類				
第3週	第2章欧米におけるホテルの歴史 1古代の宿泊業 2中世の宿泊業				
第4週	第2章欧米におけるホテルの歴史 3近世 4近代 5現代のホテル業				
第5週	第3章日本におけるホテルの歴史 1奈良平安時代 2鎌倉室町時代				
第6週	第3章日本におけるホテルの歴史 3江戸時代 4明治大正時代 5昭和平成時代				
第7週	第4章ホテルの現状と経営特性 2ホテルの建築構造 3ホテルの組織 4経営特性				
第8週	中間試験				
第9週	第5章ホテル実務の基本とホスピタリティ 5お客様対応のポイント				
第10週	第5章ホテル実務の基本とホスピタリティ 7外国人宿泊客				
第11週	第6章宿泊部門				
第12週	第7章料飲部門・調理部門				
第13週	第8章施設・設備メンテナンス部門				
第14週	第9章営業部門				
第15週	第10章危機管理対策 1危機管理対策のポイント				
第16週	第10章危機管理対策 2危機管理対策の実際				
第17週	まとめ				
第18週	期末試験				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
ホテル概論					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。



学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲概論		必修・選択（注 記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予 定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルの料飲部門（レストラン・宴会）では、お客様に料理・飲物を提供する。お客様に満足と感動を与え、認めていただくには、実習で学ぶ技能のほかに、あらゆる食材・飲料・衛生に対する知識を備える。また、ホテル実務技能検定初級・上級、およびレストランサービス技能検定3級の出題範囲であるため、暗記ではなく長期的な知識として身に付ける。				
◆概要	料飲サービススタッフは、日々様々なお客様を迎え接客することから、お客様の質問に適切に説明するために必要な基本的知識や関連・周辺知識を身につけておかなければならない。料理や飲料はその国の気候風土と味覚に合うような形で発展してきたものであるため、母国のそれと性質が異なっても偏見でなく敬意をもって学習する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ワインの分類 ブドウ品種			
第2週	【第4節 飲料の種類および特徴】	フランスのワイン			
第3週	【第4節 飲料の種類および特徴】	ドイツのワイン			
第4週	【第4節 飲料の種類および特徴】	イタリアのワイン			
第5週	【第5節 飲料の種類および特徴】	アメリカのワイン スペインのワイン			
第6週	【第5節 飲料の種類および特徴】	オーストラリアのワイン ニュージーランドのワイン			
第7週	【第5節 飲料の種類および特徴】	チリのワイン アルゼンチンのワイン			
第8週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本のワイン			
第9週	中間試験				
第10週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ワインの管理 酒精強化ワイン 混成ワイン			
第11週	【第5節 飲料の種類および特徴】	ビール			
第12週	【第5節 飲料の種類および特徴】	スピリッツ			
第13週	【第5節 飲料の種類および特徴】	リキュール			
第14週	【第5節 飲料の種類および特徴】	日本酒 焼酎 泡盛			
第15週	【第5節 飲料の種類および特徴】	コーヒー			
第16週	【第5節 飲料の種類および特徴】	紅茶			
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
蒸留酒を試飲する際、20歳以下の学生は香りのデグスタシオンを行う。					
4. 使用教材（テキスト等）					
西洋料理 料飲接客サービス技法					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%					
・課題発表（中間・期末） 70%					
6. その他					
担当者実務経験：五つ星ホテルでソムリエ・日本酒唎酒師・和洋サービスの経験のある教員が、飲料の概要・歴史・醸造及び蒸留方法やメニュー解説などの具体的内容を現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	レストランサービス実習1	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	2単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルバッシング)		
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。		
2. 授業内容(週単位で記入)			
第1週	レストランサービス技能検定とは 実習室の使用及び清掃方法 制服の着用方法の説明		
第2週	【接客の基本】身だしなみ 立ち姿(立位置)着席補助 【レストラン部門の組織】		
第3週	【什器備品の知識】1 銀器類の取り扱い、陶磁器類のプレートサービス		
第4週	【什器備品の知識】2 グラス器類のトレイサービス		
第5週	【リネン備品の知識】リネン類 ナプキンの折り方		
第6週	【テーブル・クロスの設定】 アンダー・クロス、テーブル・クロス、トップ・クロスのかけ方		
第7週	【テーブル・セッティング】朝食 コンチネンタル、アメリカン・ブレイクファスト		
第8週	中間試験(テーブルセッティング実技)		
第9週	【プレートサービス】1 基本の持ち方、2枚持ち、3枚持ち		
第10週	【プレートサービス】2 提供の仕方、下げ方1、下げ方2(カトラリー込み)		
第11週	【サーバーの使い方】サーバー練習(西洋式、日本式)、パンのサービス、ケーキのサービス		
第12週	【プラッターサービス】1 イギリス式サービス、フランス式サービス		
第13週	【プラッターサービス】2 ロシア式サービス、ソースのかけ方		
第14週	【水のサービス】【コーヒーサービス】 ウォーターピッチャー、コーヒーポットの注ぎ方		
第15週	【デセールサービス】【トレイによるコーヒーサービス】 ダストパンの使い方、コーヒー・紅茶の提供方法		
第16週	【スープのサービス】【トレイによるスープサービス】 スープレードルの使い方、ブイヨンスープの提供方法		
第17週	期末試験1(プレートサービス、トレイサービス)		
3. 履修上の注意			
授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。 <span style="float: right;">グラ</span> ス・食器の拭き上げ作業などはお客様へ直接的なサービスではないが、衛生面においても重要な仕事であるため、評価基準とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。			
4. 使用教材(テキスト等)			
制服着用			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%			
・中間・期末試験状況 60%			
6. その他			
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。			
担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習1(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習1では、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100スコア上げる。(総合演習2まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト、発音記号の読み方				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第2週目にサンプル問題による試験を実施する。また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155) 希望者が10名以下の場合は、TOEIC公開テストを外部で受験し、スコアを測定する。(¥5,725)					
4. 使用教材(テキスト等)					
TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ウエディングスビューティフル1		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	1
総授業数(予定)	52コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	アメリカウエディングの基礎知識及び、日本との違いの基礎知識の習得。WBW認定ウエディングスペシャリスト合格を目標とする。				
◆概要	海外でプロデューサーとして起業するとしたら、どのような知識が必要なのかを学ぶ。アメリカと日本のウエディングの違いも比較しながら、全16章を1章ごとに学習し課題を提出する。合格後次の章に進み、全ての章に合格し、認定ウエディングスペシャリストの資格取得を目指す。				
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>					
第1週	認定ウエディングスペシャリストとは 課題の進め方 スコアについて。第1章ウエディングプロデューサーとして起業する				
第2週	第1章 第1章課題				
第3週	第1章課題返却と解説 第2章メンタルパワー				
第4週	第2章課題 第3章本当の自分				
第5週	第2章課題返却と解説 第3章				
第6週	第3章課題 第4章伝える技術				
第7週	第3章課題返却と解説 第4章スピーチ				
第8週	第4章スピーチ 第4章課題				
第9週	第4章課題返却と解説 第5章ピープルマネジメントスキルの向上				
第10週	第5章 第5章課題				
第11週	第5章課題返却と解説 第6章結婚式の慣習				
第12週	第6章課題 第7章結婚式の歴史と伝統				
第13週	第6章課題返却と解説 第7章				
第14週	第7章課題 第8章挙式1				
第15週	第7章課題返却と解説 第8章				
第16週	第8章 第8章課題				
第17週	第8章課題返却と解説 第9章挙式2				
第18週	第9章 第9章課題				
<b>3. 履修上の注意</b>					
学習に入る前に各章を必ず読んでおくこと。課題は実施日の放課後までに提出すること。課題にはA+～Cまでの成績が付けられて返却される。C評価は合格点に達するまで再提出すること。グループでテーマ検討・発表する場合がある。スピーチの発表がある。課題に向けて宿題を出す場合がある。自主的に学習すること。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
ウエディングスビューティフルテキスト、日本のウエディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン、雑誌、式場パンフレット					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題準備・授業姿勢) 40% ・課題成績 50%					

## 6. その他

担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼施行経験より、日本とアメリカのウエディングを比較しながら各国のウエディングに対する考え方の違いや伝統、進行、プロデュース方法などの指導を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ブライダルプランニング2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2月の挙式実習の打ち合わせ～当日の進行管理までを行い、企画力、提案力と挙式の施行技術を身に付ける。				
◆概要	リアルウェディングの企画、打ち合わせ、アイテム作成、当日施行・進行管理を行い結婚式当日までの業務の知識を深める。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	今年度の挙式実習について概要説明、新郎新婦について、注意事項等				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等)				
第3週	グループごとにプレゼンテーション				
第4週	グループワーク(内容再考)				
第5週	グループごとにプレゼンテーション				
第6週	グループワーク(アイテム制作)				
第7週	グループワーク(アイテム制作)				
第8週	グループワーク(アイテム制作)				
第9週	グループワーク(アイテム制作)				
第10週	グループワーク(アイテム制作)				
第11週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第12週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第13週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第14週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第15週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第16週	リハーサル、挙式施行・進行管理				
第17週	反省会 礼状作成				
3. 履修上の注意					

授業は1、2年合同とする。5～6人のグループワークが中心のため、積極的、自主的に取り組むこと。また、放課後等の自主的な練習が必要。当日は全員で施行する。

#### 4. 使用教材(テキスト等)

ノートパソコン、ブライダルテキスト、ブライダル雑誌

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 絶対評価

- ・ 出席率10%
- ・ 授業、練習の取り組み40%
- ・ 挙式当日の取り組み、当日の完成度50%

#### 6. その他

担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでブライダルコーディネーターとして勤務経験があり認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼施行経験より、リアルウェディングの打合せから当日の施行、進行管理の技法を指導を行う科目である。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	信州ブライダル協議会		
科目名	ブライダル実務	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・実習	年次	1
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・校外	前・後期	後期
企業連携科目	○	実務経験のある教員等による授業科目			○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダル業界や、結婚式の基礎を学び、リアルウエディングの施行技術を身に付ける。				
◆概要	各企業のスペシャリストによる特別講義を受講し、ブライダル関連企業の業務、お客様のニーズに合わせた接客方法や接客マナーを学ぶ。また、挙式実習において、当日施行・進行管理技術を実践的に身に付ける。後半は2月に行うリアルウエディングについて役割ごとに準備・練習し、本番当日も施行する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 9/29	ブライダル特別講義				
第2週 10/6	ブライダル特別講義				
第3週 10/13	ブライダル特別講義				
第4週 10/27	ブライダル特別講義				
第5週 11/10	ブライダル特別講義				
第6週 11/17	ブライダル特別講義				
第7週 11/24	ブライダル特別講義				
第8週 12/1	ブライダル特別講義				
第9週 12/8	各セクションの動き共有				
第10週 12/15	接客マナー実地訓練				
第11週 1/12	挙式当日の動き(役割ごと確認・概要説明)				
第12週 1/19	挙式当日の動き(実地訓練)①				
第13週 1/26	挙式当日の動き(実地訓練)②				
第14週 2/2	ウエディング最終チェックとリハーサル				
第15週 2/9	* 挙式施行・進行管理 (* 前日リハーサル)				
第16週 2/16	挙式施行の反省とまとめ				



### 3. 履修上の注意

ホテルブエナビスタには徒歩で移動すること。授業時間は13:45～15:15とする。一般のお客様のご迷惑にならないよう行動すること。

### 4. 使用教材(テキスト等)

### 5. 単位認定評価方法

評価基準: 相対評価

- ・ 挙式実習における取り組み度と理解度 (70%)
- ・ 授業期間内の学生の出席率 (15%)
- ・ 授業期間中の学生の意欲的な取り組み度 (15%)

担当者実務経験：ブライダル関連企業の現役ブライダルスタッフが、現場での経験を活かし近年のブライダル事情や実例を交えて、接客方法や婚礼施行方法を指導する科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	清水		
科目名	メディアデザイン	必修・選択(注記)	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	画像・動画についての基本的な知識が身につく。 動画編集ソフトAviUtlを使って動画の作成・編集ができる。 基本的な動画制作の工程を理解し、流れにそってオリジナル作品が制作できる。				
◆概要	画像・動画についての基本的な知識を習得する。動画編集ソフトAviUtlで基本的な動画編集方法、メイキングビデオ等の制作工程を習得する。最後にオリジナルムービーを制作し発表する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	AviUtlアプリのインストールと設定				
第2週	AviUtlの基本操作1 課題演習				
第3週	AviUtlの基本操作2 フィルタの適用、ファイルの出力と保存 課題演習				
第4週	AviUtlの拡張編集1 オブジェクトの編集				
第5週	AviUtlの拡張編集2 オブジェクトの編集				
第6週	AviUtlの拡張編集3 Pluginを利用した編集				
第7週	AviUtlの拡張編集4 Pluginを利用した編集				
第8週	AviUtlの拡張編集5 テキストオブジェクトの配置				
第9週	AviUtlの拡張編集6 テキストオブジェクトの配置				
第10週	AviUtlの拡張編集7 AviUtlの上級機能				
第11週	オリジナルムービー制作				
第12週	オリジナルムービー制作				
第13週	オリジナルムービー制作				
第14週	オリジナルムービー制作				
第15週	オリジナルムービー制作				

第16週	オリジナルムービー制作
第17週	期末試験は以下により評価 オリジナルムービーの発表
<b>3. 履修上の注意</b> 動画編集ソフトとしてAviUtlを使用する。期末以外にも章ごとに課題制作を行う。課題は必ず提出すること。 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を出すこともある。未提出の場合は、単位不認定とする事がある。	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> 『AviUtl動画編集実践ガイドブック』(技術評論社) 課題プリント	
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準:絶対評価 授業態度20%、期末課題40%、課題20% ただし、課題提出状況や出席状況に応じて評価は変動する。	
<b>6. その他</b>	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダルホテル学科	担当者	小林千尋		
科目名	キャリアプランニング2	必修・選択	必修		
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	1年
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	MIT普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	キャリアプランニング1をベースに、就職活動をより円滑に進めるための実務の実践的レベルを目指す。				
◆概要	面接と電話応対を中心に、求人票の見方や企業情報の収集にも力を入れる。送付状や封筒の記入など実践直前の内容となる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ビジネスマナーと面接について				
第2週	面接練習①				
第3週	面接練習②				
第4週	面接練習③				
第5週	電話応対①				
第6週	電話応対②				
第7週	電話応対③				
第8週	リクナビを活用した就活講座				
第9週	中間テスト 一般教養とSPI				
第10週	リクルートスタイル講習会				
第11週	就活用写真撮影				
第12週	企業情報収集とビジネスマナー				
第13週	就職ラリー準備				
第14週	送付状、お礼状、封筒の記入①				
第15週	送付状、お礼状、封筒の記入②				

第16週	求職票の作成
第17週	期末テスト 求職票の作成(清書)
3. 履修上の注意 筆記用具を持参	
4. 使用教材(テキスト等) プリント教材	
5. 単位認定評価方法 評価基準:絶対評価 絶対評価で中間・期末テスト、授業態度、出席状況、課題提出・内容	
6. その他 「リクナビ登録・就活講座」、「リクルートスタイル講習会」、「就活写真撮影」は外部との調整上、スケジュールが前後したり、その影響で他のスケジュールが動く場合があります。	

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	高田 千衣	
科目名	情報リテラシー2		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトWORDおよびEXCEL操作で資料作成ができる。 日本情報処理検定協会主催の「文書デザイン検定2級」および「表計算検定2級」以上の検定合格を目標とする。				
◆概要	文書デザイン検定問題、表計算検定を解きながら、Word販促資料作成、Excel資料作成スキルを身に付ける。12月に個々の習熟度に応じた級の文書デザイン検定を受験する。2月に個々の習熟度に応じた級の表計算検定を受験する。なお、10月の検定は希望受験とする。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 ワープロ検定問題演習、表計算検定3級程度の問題解法				
第2週	文書デザイン検定2級程度の問題解法 ワープロ検定問題演習、表計算検定3級程度の問題解法				
第3週	問題演習およびワープロ検定・文書デザイン検定				
第4週	文書デザイン検定1級程度の問題解法 表計算検定3級程度の問題解法				
第5週	文書デザイン検定1級程度の問題解法、検定申込 表計算検定準2級程度の問題解法				
第6週	文書デザイン検定問題演習 表計算検定準2級程度の問題解法				
第7週	文書デザイン検定問題演習 表計算検定2級程度の問題解法				
第8週	文書デザイン検定問題演習 表計算検定2級程度の問題解法				
第9週	中間試験 文書デザイン検定2級程度の問題				
第10週	問題演習および文書デザイン検定・表計算検定				
第11週	表計算検定準1級程度の問題解法 個別問題演習				
第12週	表計算検定準1級程度の問題解法、検定申込 個別問題演習				
第13週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第14週	表計算検定1級程度の問題解法 個別問題演習				
第15週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第16週	表計算検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				

第17週	期末試験 表計算検定(期末試験兼ねる)
<b>3. 履修上の注意</b> 課題の提出あり(MITファイルサーバへ) 欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日まで提出する	
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b> マイクロソフトWord/Excelを使用 授業配布プリント、検定模擬問題プリント、検定過去問題プリント	
<b>5. 単位認定評価方法</b> 評価基準: 絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、 中間または期末試験評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※注	
<b>6. その他</b> ※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある	

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	Sean A. Leischner	
科目名	実務教養2(英会話)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ホテルの接客英語のフレーズを覚える。 ゲストが話す英語を聞きとることができる。 臨機応変に英語で対応することができる。				
◆概要	ホテルに来館するゲスト、ホテルマン＝接客のプロと考え、当然ホテルリエは英語を話せ、理解できるものと考え話しかけてきます。困っているゲストがいたら、その方の話す言語に関わらず手助けしたいと願うのが真のサービスパーソンです。そのために最低限の英会話フレーズを覚え、英語で対応する努力をし、それを習慣してください。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	前期の練習				
第2週	レストランの1:お客さんに挨拶、メニューを渡し、最初の飲み物の注文など				
第3週	レストランの2:メインの注文、食事を説明など				
第4週	レストランの3:食事の後、勘定の支払い				
第5週	レストランを練習すること				
第6週	バーでお客さんを扱い方など				
第7週	中間テストの準備し、今までの内容を練習し				
第8週	中間試験				
第9週	お客さんのサービス				
第10週	お客さんにいろいろな意見を教えたり、勧めたりすること				
第11週	コミュニケーションの問題の1:お客さんはクレームするとき				
第12週	コミュニケーションの問題の2:お客さんはクレームするとき				
第13週	バーと食事する時、お客さんの文句をどうすればいい				
第14週	ルームサービス、ハウスキーピング				
第15週	ハウスキーピングの問題を解決すること				
第16週	期末の準備し、最後の練習				
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
積極的に発言すること					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
Hotel & Hospitality English (Collins)					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準:絶対評価					



- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| ・出席による評価 15%     | ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15% |
| ・課題発表（中間・期末） 70% |                           |

6. その他

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル総合演習1		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ホテルで働くどの職種でも、年齢・性別・障害の有無に関わらず、あらゆるお客様の役に立ちたい、喜ばせたい、楽しませたいという気持ちがホテリエに必要な資質であることを理解する。				
◆概要	2年次に受験するホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【フロント・サービス編】1、宿泊部門の業務 2、ドアマン 3、ベルマン				
第2週	【フロント・サービス編】4、クローク 6、コンシェルジュ				
第3週	【フロント・サービス編】5、客室部門(ハウスキーピング)				
第4週	【フロント・サービス編】確認テスト				
第5週	【レストラン・宴会編】 料飲部門の概要 什器・食器・備品類の知識				
第6週	【レストラン・宴会編】 メニュー 西洋料理の基礎知識				
第7週	【レストラン・宴会編】 朝食 日本料理 中国料理				
第8週	【レストラン・宴会編】確認テスト				
第9週	【フロント・オフィス編】1、フロントオフィスとは 2、客室のタイプと料金				
第10週	【フロント・オフィス編】3、リゼーション業務				
第11週	【フロント・オフィス編】4、レセプション業務 5、フロント・キャッシャー				
第12週	【フロント・オフィス編】6、インフォメーション業務 7、防犯業務				
第13週	【フロント・オフィス編】モデル宿泊約款				
第14週	【フロント・オフィス編】確認テスト				
第15週	【バー・ラウンジ編】 バーラウンジの概要				
第16週	【バー・ラウンジ編】 カクテルの基礎知識				
第17週	【バー・ラウンジ編】確認テスト				
3. 履修上の注意					
4. 使用教材(テキスト等)					
ホテルテキスト「ホテル業務関連知識」「宿泊Ⅰフロント・オフィス編」「宿泊Ⅱフロント・サービス編」「料飲Ⅰレストラン・宴会編」「料飲Ⅱバー・ラウンジ編」〈ウイネット〉					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	レストランサービス実習2		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	1年次
総授業数（予定）	34コマ	授業場所	実習室403	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。（①客席案内、				
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学ん				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	【朝食サービス】 1 概要、役割分担				
第2週	【朝食サービス】 2 セッティング				
第3週	【朝食サービス】 3 オーダーの受け方、確認方法、伝票の書き方				
第4週	【朝食サービス】 4 1テーブル ソムリエナイフの構造				
第5週	【朝食サービス】 5 1テーブル スティルワイン抜栓				
第6週	【朝食サービス】 6 2テーブル スティルワイン抜栓				
第7週	【朝食サービス】 7 2テーブル スティルワイン抜栓				
第8週	中間試験				
第9週	【朝食サービス】 8 3テーブル ワインクーラー内のスティルワイン抜栓				
第10週	【朝食サービス】 9 3テーブル スパークリングワインの抜栓				
第11週	【朝食サービス】 10 3テーブル スパークリングワインの抜栓				
第12週	【朝食サービス】 11 4テーブル パニエ抜栓				
第13週	【朝食サービス】 12 4テーブル スティルワインサーヴ				
第14週	【朝食サービス】 13 4テーブル スティルワインサーヴ				
第15週	【朝食サービス】 14 4テーブル スパークリングワインサーヴ				
第16週	【朝食サービス】 15 4テーブル スパークリングワインサーヴ				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。 グラス・食器の拭き上げ作業などはお客様へ直接的なサービスではないが、衛生面においても重要な仕事であるため、評価基準とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
4. 使用教材（テキスト等）					
制服着用					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢）30%					
・中間・期末試験状況 60%					
6. その他					
実習に使用する備品（グラス・食器など）を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。 担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	サービス論1		必修・選択（注記）	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数（予定）	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験（国家資格）の筆記試験の合格を目標とする。（尚、実技試験の受験資格は同筆記試験合格後に得られ、その対策授業は後期の『料飲サービス1・2』で実施する。）				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>					
第1週	【第1章 食材・飲料等の基礎知識】	第1節：食品			
第2週		第1節：食品			
第3週		第2節：西洋料理に使用される主な食材			
第4週		第2節：西洋料理に使用される主な食材			
第5週		第3節：調理法 第5節：メニュー			
第6週	【第3章 宴会とレストランサービス】	第12節：食事の国際習慣			
第7週		第12節：食事の国際習慣			
第8週	中間試験				
第9週	【第4章 食文化】				
第10週		第1節：食文化史と現状の食環境			
第11週		第2節：食文化と食事作法（テーブルマナー）			
第12週		第3節：西洋料理の変遷			
第13週	【第5章 施設管理】	第1節：施設の知識			
第14週		第2節：防災、第2節：設備の維持管理			
第15週	【第6章 苦情対応と遺失物の取り扱い】				
第16週	総復習				
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
<b>4. 使用教材（テキスト等）</b>					
西洋料理 料飲接客サービス技法					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み（課題の提出・授業姿勢） 15%					
・課題発表（中間・期末） 70%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験：都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習2(TOEIC対策)		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1年次
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習2でも、まずTOEIC試験(リスニング45分・リーディング75分)に耐え、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを100点上げる。(総合演習2まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第1週目に過去問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155) 希望者が10名以下の場合は、TOEIC公開テストを外部で受験し、スコアを測定する。(¥5,725)					
4. 使用教材(テキスト等)					
TOEIC TEST必ずでる単 スピードマスター〈Jリサーチ出版〉					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)総合演習1を履修していない学生も総合演習2から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	大槻 俊子		
科目名	総合演習 1	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	1
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習				
～	学生の手引き、学生生活ルールの確認				
第38週	クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ブライダル総論		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	33コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ブライダルの基礎知識を身に付け、基本的なプランニングと接客の方法を習得する。また認定ウエディングプランナー検定の合格を目標とする。				
◆概要	1年次の学習(ブライダルプランニング1)の続きから、プランナー業務全般(新規接客、打ち合わせ、婚礼施行・進行管理))について学習する。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	婚礼衣裳				
第2週	新規接客業務、接客のテクニック				
第3週	婚礼打ち合わせ業務(招待状、料理、ドリンク、フォト、引出物)				
第4週	進行、演出				
第5週					
第6週	レイアウト、ペーパーアイテム				
第7週	ペーパーアイテム、装飾				
第8週	書類、手配、最終打ち合わせ				
第9週	中間試験				
第10週	書類、手配、最終打ち合わせ				
第11週	婚礼施行・進行管理				
第12週	試験対策				
第13週					
第14週					
第15週					
第16週	認定ウエディングプランナー認定試験				
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
二人一組、グループワークで発表を行う場合がある。試験対策問題は宿題とする場合がある。検定合格に向け、自主学習を積極的に行なうこと。検定終了後は校内挙式の準備を行う。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
日本のウエディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・ 中間試験、期末試験、認定試験による評価 50%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、新規接客、手配、婚礼施行方法など、ブライダルコーディネーター業務全般及び、ブライダル業界について、現場での経験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	大槻 俊子		
科目名	ドレスコーディネート1	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	ウエディングにおいて新婦の関心事の1つである衣裳の基礎知識、専門的な知識、実践的なスキルを身に付け、認定ドレスコーディネーター検定の合格を目標とする。				
◆概要	婚礼衣裳業務に関わるプロとして知っておきたい洋装、和装の基礎知識、貸衣裳業に携わるために必要な実践技術の他、関連の深い美容、花の基礎知識を学ぶ。				
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>					
第1週	衣裳業界とは ブライダル関連企業 婚礼衣裳の変遷 衣裳のタイプ ドレスコード				
第2週					
第3週	新婦の衣裳と小物(和装・洋装) サイズ ブーケ コーディネート				
第4週					
第5週					
第6週					
第7週	フィッティング体験				
第8週	新郎の衣裳と小物(和装・洋装) 中間試験				
第9週					
第10週					
第11週	家紋 列席者の衣裳				
第12週					
第13週	ドレスコーディネーターの業務				
第14週					
第15週	ドレスコーディネーターの実務 採寸 マタニティ衣裳 お直し メンテナンス				
第16週					
第17週	期末試験				
<b>3. 履修上の注意</b>					
グループでテーマ検討・発表を行う場合がある。 2人1組(又はトルソーを用いて)で採寸を行う。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
日本のドレスコーディネーター育成プログラム ノートパソコン					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 15% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・ 中間試験、期末試験による評価 45%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、衣裳合わせ、メンテナンス、ドレスコード、接客術など衣裳に関する基礎知識を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					



学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ドレスコーディネート2		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2年次
総授業数(予定)	18コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	衣裳に対するこだわりの多いカップルに対応する専門的な知識と実践的なスキルを身に付け、認定ドレスコーディネーター検定の合格を目標とする。				
◆概要	婚礼衣裳業務に関わるプロとして知っておきたい洋装、和装の基礎知識、貸衣裳業に携わるために必要な実践技術の他、関連の深い美容、花の基礎知識を学ぶ。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ドレスコーディネーターの実務 台帳 仕入れ イベント集客 書類				
第2週	婚礼美容				
第3週	ブライダルフラワー				
第4週	試験対策問題、解説、答え合わせ				
第5週					
第6週					
第7週					
第8週	「認定ドレスコーディネーター」認定試験(日程未確定)				
第9週	期末試験				
3. 履修上の注意					
グループでテーマ検討・発表を行う場合がある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
日本のドレスコーディネーター育成プログラム ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・ 中間試験、検定合格による評価 50%					
6. その他					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、衣裳合わせ、メンテナンス、ドレスコード、接客術などの衣裳に関する基礎知識を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ウエディングスビューティフル2		必修・選択	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	講義	年次	2
総授業数(予定)	51コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	アメリカウエディングの基礎知識及び、日本との違いの基礎知識の習得。WBW認定ウエディングスペシャリスト合格を目標とする。				
◆概要	海外でプロデューサーとして起業するとしたら、どのような知識が必要なのかを学ぶ。アメリカと日本のウエディングの違いも比較しながら、全16章を1章ごとに学習し課題を提出する。合格後次の章に進み、全ての章に合格し、認定ウエディングスペシャリストの資格取得を目指す。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	第9章課題返却と解説 第10章テーブルトップとテーブルウェア				
第2週	第10章テーブルトップとテーブルウェア				
第3週	第10章課題 第11章ウエディングファッション				
第4週	第10章課題返却と解説 第11章				
第5週	第11章課題 第12章プロデュースの実務を習得する				
第6週	第11章課題返却と解説 第12章				
第7週	第12章課題 第13章披露宴				
第8週	第12章課題返却と解説 第13章				
第9週	第13章課題 第14章結婚式の招待状				
第10週	第13章課題返却と解説 第14章				
第11週	第14章 第14章課題				
第12週	第14章課題返却と解説 第15章ビジネスフォームと契約				
第13週	第15章課題 第16章				
第14週	第15章課題返却と解説 第16章課題				
第15週	第16章課題				
第16週	第16章課題				
第17週	第16章課題提出				
3. 履修上の注意					
学習に入る前に各章を必ず読んでおくこと。課題は実施日の放課後までに提出すること。課題にはA+～Cまでの成績が付けられて返却される。C評価は合格点に達するまで再提出すること。グループでテーマ検討・発表する場合がある。課題に向けて宿題を出す場合がある。自主的に学習すること。特に第16章は問題量が多いため、計画的に進めること。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ウエディングスビューティフルテキスト、日本のウエディングプランナー育成プログラム、ノートパソコン、雑誌、式場パンフレット					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題準備・授業姿勢) 40% ・課題成績 50%					
6. その他					

担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼施行経験より、日本とアメリカのウエディングを比較しながら各国のウエディングに対する考え方の違いや伝統、進行、プロデュース方法などの指導を行う科目である。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	大槻 俊子		
科目名	パーティープランニング2	必修・選択	選択必修		
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2
総授業数(予定)	35コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	9月校内挙式またはイベントの打ち合わせ～当日の進行管理までを行い、企画力、提案力と挙式の施行技術を身に付ける。				
◆概要	校内リアルウェディングまたはイベントの企画、打ち合わせ、アイテム作成、当日施行・進行管理を行い結婚式当日までの業務の知識を深める。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	今年度の挙式施行またはイベントについて概要説明 過去の挙式DVD鑑賞				
第2週	担当マニュアルの確認 DVD鑑賞 役割について 校内挙式またはイベントグループワーク(テーマ、進行、演出)				
第3週	校内挙式またはイベントグループワーク(テーマ、進行、演出)				
第4週	グループごとに企画発表、企画再考				
第5週	グループごとに企画発表、企画再考				
第6週	グループごとに企画発表 進行決定				
第7週	アイテム制作(グループごとに各アイテムの制作),経過報告				
第8週					
第9週					
第10週					
第11週					
第12週	アイテム制作、挙式練習				
第13週					
第14週					
第15週					
第16週					
第17週					
第18週	最終調整、リハーサル				
3. 履修上の注意					
校内挙式希望者が居ない場合は、ショーや校内コンテストなど、ブライダルに関するイベントの企画・施行を行う。授業は1、2年合同とする。5～6人のグループワークが中心のため、積極的、自主的に取り組むこと。また、放課後等の自主的な練習が必要。挙式やイベントは全員参加とする。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ノートパソコン					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価					
・出席による評価10% ・授業の取り組み40% ・挙式当日の取り組み、完成度50%					
6. その他					
担当者実務経験:専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり、認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼及び関連イベントに関する進行の組み立て方や、接客術、当日の進行管理・施行方法を、現場での体験や実例を交えて指導を行う科目である。					

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	堀内 貴彦	
科目名	情報リテラシー3		必修・選択	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	マイクロソフトのPowerPointでプレゼンテーション用のスライドが作成できる 作成したスライドを使ってプレゼンテーション(発表)ができる 日本情報処理検定協会主催の「プレゼンテーション検定2級」以上の検定合格を目標とする				
◆概要	プレゼンテーション検定の問題を解きながら、PowerPointの基本的な操作・スライド作成方法を習得する。プレゼンテーション検定1級または2級(習熟度により受験級を選択)を受験する。仕上げとし与えられたテーマのプレゼンテーション課題を作成(発表)する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	PowerPointの初期設定、基本的な使い方 プレゼンテーション検定3級程度の問題の解法				
第2週	プレゼンテーション検定3級程度の問題演習				
第3週	プレゼンテーション検定2級程度の問題解法				
第4週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第5週	プレゼンテーション検定2級程度の問題演習				
第6週	プレゼンテーション検定1級程度の問題解法				
第7週	プレゼンテーション検定1級程度の問題演習				
第8週	中間試験 プレゼンテーション2級程度の問題				
第9週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第10週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第11週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第12週	プレゼンテーション検定問題演習 習熟度に応じた級別の個別問題演習				
第13週	検定試験(予定)				
第14週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第15週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第16週	課題プレゼンテーションスライド作成および発表準備				
第17週	課題発表				
3. 履修上の注意					

PowerPointを使用する  
毎授業ごとに課題の提出あり(MITファイルサーバへ)  
欠席(公欠含む)した場合は、欠席分の課題を次回の授業日までに提出する

#### 4. 使用教材(テキスト等)

参考書 30時間マスターOFFICE2016  
検定過去問題のプリント

#### 5. 単位認定評価方法

評価基準:絶対評価

絶対評価を原則とする 出席10点、授業内評価(授業態度・課題提出状況)40点、  
中間試験及び課題プレゼンテーション評価40点、授業期間中の検定取得への取り組み10点 の100点満点 ※  
注

#### 6. その他

※注 検定取得への取り組みについては上位級合格はもちろん、各自の到達度により評価する  
また、各内容については、習熟状況により変更する場合がある

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	キャリアプランニング3		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	就職活動時のマナーや採用試験に向けての対策などを通して、希望する企業の内定を獲得する。また、就職後の労働において必要な準備を行い、即戦力として働く意識向上を目指す。				
◆概要	就職活動について「何をどうしたらいいのかわからない」という不安が先行し、将来何がしたくてMITに入学したのかを見失っていませんか。あれこれと悩んでいるより、どうしたら未来を切り開いていけるかを考えます。就職活動は競争ではなく、企業との「ご縁」探しです。また、内定後も企業から課せられた課題について取り組み、就職活動を続ける仲間を支援できるような人材になれるよう取り組みます。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	職種について、企業研究、就職活動日程表の書き方				
第2週	エントリーシートのポイント、セミナー・説明会の目的		【自己PR・志望動機作成】		
第3週	【就職手帳】封筒宛名の書き方と郵便料金、持参の場合 【電話対応】				
第4週	【就職手帳】送付状、お礼状の書き方				
第5週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第6週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第7週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第8週	中間試験(作文)				
第9週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第10週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第11週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第12週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第13週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第14週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第15週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第16週	講義、企業研究、試験準備、面談				
第17週	期末試験				
3. 履修上の注意					
履修中に内定した学生は企業研究レポートなどの課題あり。					
4. 使用教材(テキスト等)					
就職活動手帳					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート1		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義	年次	2
総授業数(予 定)	17コマ	授業場所	普通教室	前・後期	前期
企業連携科 目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	色彩心理 色のはたらき、光と色(光とは)				
第2週	色彩心理 光と色(光の性質、眼のしくみ)				
第3週	色彩心理 光と色(眼のしくみ、照明)				
第4週	色彩心理 光と色(混色)				
第5週	色彩心理 色の表示(色の分類と三属性)				
第6週	色の表示(色の分類と三属性)、当色相面と色立体				
第7週	色の表示(PCCS)				
第8週	中間試験 色の表示(PCCS) PCCSカラーダイヤル作成				
第9週	PCCSカラーダイヤル作成 色彩心理(色の心理的効果)				
第10週	色彩心理(色の心理的効果)				
第11週	色彩心理(色の心理的効果)				
第12週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第13週	色彩調和(色相から配色を考える)				
第14週	色彩調和(トーンから配色を考える)				
第15週	色彩調和(色相とトーンを組み合わせる配色を考える)				
第16週	色彩調和(配色の基本技法) 配色イメージ				
第17週	期末試験				



<p>3. 履修上の注意</p> <p>課題が期日までに出せない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。</p>
<p>4. 使用教材(テキスト等)</p> <p>『色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり</p>
<p>5. 単位認定評価方法</p> <p>評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。</p>
<p>6. その他</p>

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	清水	
科目名	カラーコーディネート2		必修・選択(注 記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予 定)	18コマ	授業場所	普通教室	前・後期	後期
企業連携科 目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	配色の基本、色もたらす心理的効果、生活の中での色もたらす効果などを学び、色のコーディネートの仕方や日常における色の活用方法を理解する。 色彩検定3級に合格する。				
◆概要	色のはたらきや性質、「色」の表し方や混色理論などの基礎知識、色もたらす心理的効果、カラーコーディネートの基礎を学ぶ。配色(色の組み合わせ)については、主に「PCCS」(色彩体系の一つ)をもとに学んでいく。検定合格に向けて、過去問題を中心に問題演習に多く取り組む。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ファッションと色彩				
第2週	ファッションと色彩				
第3週	インテリアと色彩・色名				
第4週	過去問解答・解説				
第5週	過去問解答・解説				
第6週	過去問解答・解説				
第7週	過去問解答・解説 期末試験				
第8週	本試験答え合わせと解答解説 期末課題				
第9週	期末課題				
第10週	期末課題				
3. 履修上の注意					
課題が期日までに提出できない場合、基準に満たない場合は、単位不認定となる場合がある。 授業に出席していても、私語や居眠りが多い場合はその時間を欠席とみなすことがある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
『A・F・T色彩検定公式テキスト3級編』 新配色カード 12色程度の色鉛筆 はさみ のり					
5. 単位認定評価方法					
評価基準:絶対評価 授業態度20%、中間・期末試験50%、課題・小テスト30% ただし、課題未提出や出席状況に応じて評価は変動する。 期末試験の得点が低くD評価だった場合、本試験合格で単位認定する。					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子
科目名	レストランサービス実習3	必修・選択(注記)	選択必修
単位数	2単位	授業形態	演習
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室403
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目		○
1. 授業の到達目的と概要			
◆到達目標	1、正しい接客マナーができる。2、正しいテーブルサービスができる。(①客席案内、②オーダーテイク、③客席での販売促進、④オーダーを通す、⑤伝票処理、⑥種類に応じたテーブルセッティング、⑦料理・飲料の種類に応じたテーブルセット、⑧料理・飲料の運搬、⑨料理・飲料の種類に応じたサービス、⑩食器類の後片付け、⑪突発事態の対処、⑫テーブルバッシング)		
◆概要	料飲サービス時の足の位置や手の出し方など、身体的動作に技術が備わっていてこそお客様に安心と信頼を感じてもらえ、満足していただける。状況に応じて優先順位を変更するなど、切羽詰まった状況に置かれたときに、基本動作を身につけていることで適切な判断ができ、効率のよい仕事に結びつく。自らのサービスが商品であることをこの授業で学んでいく。		
2. 授業内容(週単位で記入)			
第1週	【ランチサービス】ランチタイムサービス概要	【カクテル演習】	
第2週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		
第3週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		バースプーン
第4週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		
第5週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		ステア
第6週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		
第7週	【ランチサービス】レストランにおけるアラカートのランチタイムサービス		シェーカー
第8週	中間試験		
第9週	HRSランチタイム課題		アイストング
第10週	HRSランチタイム課題		
第11週	HRSランチタイム課題		レシピ作成
第12週	HRSランチタイム課題		
第13週	HRS朝食タイム課題		カクテル作成
第14週	HRS朝食タイム課題		
第15週	HRS朝食タイム課題		コンペチーム編成
第16週	HRS朝食タイム課題		
第17週	HRS朝食タイム課題		コンペ練習
第18週	期末試験		
3. 履修上の注意			
授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。 <span style="float: right;">グラ</span> ス・食器の拭き上げ作業などはお客様へ直接的なサービスではないが、衛生面においても重要な仕事であるため、評価基準とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。			
4. 使用教材(テキスト等)			
制服着用			
5. 単位認定評価方法			
評価基準: 絶対評価			
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%			
・中間・期末試験状況 60%			
6. その他			
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。 担当者実務経験: 五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。			

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	サービス論2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の筆記試験の合格を目標とする。(尚、実技試験の受験資格は同筆記試験合格後に得られ、その対策授業は後期の『料飲サービス1・2』で実施する。)				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第2週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第3週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第4週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第5週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第6週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第7週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第8週	中間試験				
第9週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第10週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第11週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第12週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第13週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第14週	HRS対策(過去問題)解答解説				
第15週	HRS実技試験について 実技試験対策				HRS
第16週	HRS実技試験対策				
第17週	HRS実技試験対策				
3. 履修上の注意					
レストランサービス技能検定筆記試験は8月下旬、東京会場で受験します。(交通費自費)					
4. 使用教材(テキスト等)					
西洋料理 料飲接客サービス技法<日本ホテル・レストランサービス技能協会> 過去問題はコピーを配布する。					過
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	ホテル総合演習2		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	3単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	50コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	1年次に履修した『ホテル総合演習1』で習得した知識を基に、さらに高度な稼働率の計算方式や語学問題の演習を行い、ホテル実務技能認定試験上級の合格を目指す。				
◆概要	ホテル実務技能認定試験上級の試験範囲は、宿泊部門・料飲部門・施設設備メンテナンス部門・営業部門などのホテル業における幅広い専門分野知識、および語学力にまで多岐に渡る。また、テキストに記載されていないホテル業界および関連業界(旅行・観光)の動向についての出題もあるため、関連する時事問題にも注目し演習をすすめる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	ユニバーサルサービス基本テキスト ユニバーサルサービスとは				
第2週	ユニバーサルサービス基本テキスト 視覚障害者				
第3週	ユニバーサルサービス基本テキスト 聴覚障害者				
第4週	ユニバーサルサービス基本テキスト 肢体不自由者、高齢者、車椅子				
第5週	ユニバーサルサービス基本テキスト 妊婦、お子様連れ、外国人、LGBT				
第6週	ユニバーサルサービス基本テキスト 知的障害、発達障害、精神障害、言語障害、内部障害				
第7週	中間試験				
第8週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第9週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第10週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第11週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第12週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第13週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第14週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第15週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第16週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
第17週	ホテル実務技能検定試験上級 過去問題 解答解説				
3. 履修上の注意					
ホテル実務技能検定上級は9月中旬の授業内で受験します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ホテルテキスト【ホテル関連知識】、【宿泊Ⅰフロント・オフィス編】、【宿泊Ⅱフロント・サービス編】、【料飲Ⅰレストラン・宴会編】、【料飲Ⅱバー・ラウンジ編】、ユニバーサルサービス基本テキスト 過去問題はコピーを配布します。					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
担当者実務経験: 都内五つ星ホテルの料飲部門、宴会部門、客室部門などで勤務経験がある教員が、ホテル全般の知識について現場での体験や事例を交えて指導する科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習3(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	前期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習3では、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習3まで履修した後の目標)また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part.1 & Part.5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第7週	中間試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part.2 & Part.5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part.3 & Part.6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part.4 & Part.7				
第16週	期末試験: TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験: TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第1週目に過去問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155) 希望者が10名以下の場合は、TOEIC公開テストを外部で受験し、スコアを測定する。(¥5,725)					ま
4. 使用教材(テキスト等)					
TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日)					総
総合演習2を履修していない学生も総合演習3から受講が可能。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ブライダルプランナー演習		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	ブライダル業界と業務の基礎を復習、習得し、国家検定であるブライダルコーディネーター技能検定3級の合格を目標とする。				
◆概要	1年次の復習としてブライダル業界とブライダルプランナーの業務の流れを学習する。ブライダルコーディネーター技能検定を受験する。				
2. 授業内容（週単位で記入）					
第1週	ブライダルコーディネーター技能検定、検定協会について。 1年次の復習				
第2週	1年次の復習 練習問題 答え合わせ				
第3週					
第4週					
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週					
第10週	中間試験				
第11週	検定対策				
第12週	検定対策				
第13週	検定対策				
第14週	検定対策				
第15週	検定受験				
第16週	ブライダルコーディネーター技能検定				
第17週	期末試験 検定問題解説				
3. 履修上の注意					
練習問題は宿題とする場合もある。					
4. 使用教材(テキスト等)					
ブライダルコーディネーターテキスト ブライダル用語辞典					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・ 出席による評価 10% ・ 授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 40%					
・ 試験による評価 50%					
6. その他					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでチーフブライダルコーディネーターとして勤務経験があり認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、ブライダル業界全般の基礎知識についての復習と、近年のウェディングの傾向について、現場での事例を交えながら指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科	担当者	古屋 怜子		
科目名	外国語(中国語)	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	16コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	正しい発音、声調の基本を理解し、会話の基礎を築くこと 挨拶や自己紹介、簡単な受け答えをできるようにすること 日常表現を可能な範囲で順次学び、コミュニケーション力を獲得すること				
◆概要	ピンインの声調と発音の基本を身につけ、基本表現を覚え、接客場面などの会話を学習				
2. 授業内容(週単位で記入)					
第1週(9/28)	中国人観光客と中国語を知ろう 中国人観光客はこんな特徴がある 中国語の発音をマスター	声調・母音			
第2週(10/5)	中国語の発音をマスター 第1章 接客基本フレーズ	複母音 1 あいさつ	声調符号のつけ方 2 出迎える		
第3週(10/12)	中国語の発音をマスター 第1章 接客基本フレーズ	子音(有気音と無気音) 3 対応する①	4 対応する②		
第4週(10/19)	中国語の発音をマスター 第1章 接客基本フレーズ	鼻音をともなう母音 5 案内する	声調の変化 6 中国語でのサービス		
第5週(10/26)	数字・月・日・曜日の言い方 第1章 接客基本フレーズ	7 話を聞く	8 お詫びする		
第6週(11/9)	中国のお金(実物) 第1章 接客基本フレーズ	13 お勘定①	14 お勘定②		
第7週(11/16)	復習				
第8週(11/30)	中間試験				
第9週(12/7)	第4章 ホテル・旅館フレーズ	38 チェックイン 40 宿泊料金	39 部屋の要望 41 時間と部屋番号		
第10週(12/14)	第4章 ホテル・旅館フレーズ	42 朝食	43 設備を説明する		
第11週(12/21)	第4章 ホテル・旅館フレーズ	44 温泉旅館 46 温泉旅館の食事	45 温泉の効能 温泉の入り方のアドバイス		
第12週(1/11)	第6章 緊急・トラブルフレーズ	57 具合を聞く 59 トラブル	58 救護する 60 地震		
第13週(1/18)	レストランとホテルの場面練習				
第14週(2/1)	自己紹介				
第15週(2/8)	中国最大のイベント 春節についての紹介 復習				



第16週(2/15)	期末試験
3. 履修上の注意	
勉強した内容について繰り返し練習すること またグループでテーマ応用練習・発表をする場合もある	
4. 使用教材(テキスト等)	
すぐに使える接客中国語会話 大特訓 授業に合わせて、必要時に資料を用意 CDプレイヤー ノートパソコン	
5. 単位認定評価方法	
評価基準: 絶対評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席による評価 15%</li> <li>・ 授業への取り組み (課題の提出・授業姿勢) 15%</li> <li>・ 課題発表 (中間・期末) 70%</li> </ul>	
6. その他	

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	大槻 俊子	
科目名	ブライダルプランニング3		必修・選択	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	実習	年次	2
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	校内・実習教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	2月の挙式実習の打ち合わせ～当日の進行管理までを行い、企画力、提案力と挙式の施行技術を身に付ける。				
◆概要	リアルウェディングの企画、打ち合わせ、アイテム作成、当日施行・進行管理を行い結婚式当日までの業務の知識を深める。				
<b>2. 授業内容（週単位で記入）</b>					
第1週	今年度の挙式実習について概要説明、新郎新婦について、注意事項等				
第2週	グループワーク(テーマ、進行、演出等)				
第3週	グループごとにプレゼンテーション				
第4週	グループワーク(内容再考)				
第5週	グループごとにプレゼンテーション				
第6週	グループワーク(アイテム制作) 経過報告				
第7週					
第8週					
第9週					
第10週					
第11週	グループワーク(アイテム制作)、挙式練習				
第12週					
第13週					
第14週					
第15週					
第16週	挙式参加				
第17週	反省会、礼状作成				
<b>3. 履修上の注意</b>					
授業は1、2年合同とする。5～6人のグループワークが中心のため、積極的、自主的に取り組むこと。練習は主に1年生の指導、サポートを行う。また、放課後等の自主的な練習が必要。当日はゲストとして出席する。挙式は全員参加とする。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
ノートパソコン、ブライダルテキスト、雑誌					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価10% ・授業の取り組み40% ・挙式当日の取り組み、完成度50%					
<b>6. その他</b>					
担当者実務経験: 専門式場、シティホテルでブライダルコーディネーターとして勤務経験があり認定エグゼクティブインストラクター資格を有する教員が、婚礼施行経験より、リアルウェディングの打合せから当日の施行・進行管理の技法を指導する科目である。					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	各担当	
科目名	卒業研究		必修・選択	選択必修	
単位数	4単位	授業形態	実習	年次	2
総授業数(予定)	70コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	2年間の学習を活かし、興味を持ったことや、就職先で活用できそうなことを研究・制作する。制作物(制作がある場合)、卒業論文、中間、最終発表で使用したパワーポイントデータを提出する。				
◆概要	個人、又はグループで研究テーマを決定し、研究・制作を行う。研究課程は中間、最終の2回の発表会にてパワーポイントデータにて発表する。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	卒業研究概要説明、スケジュール説明				
第2週	テーマ決め、スケジュールを立てる、費用計画				
第3週	必要備品の準備、購入、研究・制作に取り掛かる				
第4週	研究・制作				
第5週					
第6週					
第7週					
第8週					
第9週	研究・制作、中間発表練習				
第10週	研究・制作、中間発表練習				
第11週	中間発表				
第12週	研究・制作、論文作成				
第13週					
第14週					
第15週	研究・制作、論文作成、最終発表練習				
第16週	研究・制作、論文作成、最終発表練習				
第17週	最終発表				
3. 履修上の注意					
毎週金曜日に1週間分の研究日誌を提出する。研究、マーケティング等、就職後に役立てるよう積極的に行なう。中間、最終発表は評価表を用いて、学科教員、他グループ、1年生が評価する。					
4. 使用教材(テキスト等)					
各授業テキスト、ノートパソコン他					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価					
・出席による評価 10% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 30%					
・完成度(研究内容・発表) 60%					
6. その他					

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	料飲サービス(HRS対策)		必修・選択 (注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	アヴニール	前・後期	後期前半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	平成14年に厚生労働省大臣より職業能力開発促進法に基づく「レストランサービス技能士」の指定試験機関の指定を受けた『日本ホテル・レストランサービス技能協会』主催のレストランサービス技能3級試験(国家資格)の実技試験の合格を目標とする。				
◆概要	「レストランサービス技能検定」を受検するためには、各等級毎に所定の実務経験年数が必要となるが、3級については実務経験年数のない専門学校の在校生で卒業する見込みのある者も受検できるよう例外的な措置として承認校制度が設けられ、未来ビジネスカレッジはその承認校である。在学中に国家資格を取得することはサービス業界でも高い評価を得られる。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	【朝食のサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第2週	【朝食のサービス】 指示事項にある課題練習				
第3週	【ランチサービス】 メニュー、試験場に用意してあるもの確認、シミュレーション				
第4週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第5週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第6週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第7週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第8週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
第9週	HRS協会が指定した試験内容の課題練習				
3. 履修上の注意					
レストランサービス技能検定の筆記試験に不合格した者も同様に本科目を受講し、演習を行う。					
4. 使用教材(テキスト等)					
制服着用					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。					
担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 〈専攻〉	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習5(学生レストラン)		必修・選択 (注記)	選択必修	
単位数	2単位	授業形態	演習	年次	2年次
総授業数(予定)	34コマ	授業場所	実習室(403)	前・後期	後期後半
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				○
<b>1. 授業の到達目的と概要</b>					
◆到達目標	「レストランサービス実習1・2」で習得した料飲サービスの技術、衛生学・料飲概論などで得た知識を応用し、「学生レストラン」を開業する。営業を通して自主性および協調性を学び、ホスピタリティの本質を理解する。また、突発的な事態でも冷静にかつ臨機応変な対応ができるよう訓練をする。				
◆概要	料飲サービスを支える条件には「知識」「技術」「マインド」「チームワーク」の4つの要素がある。「知識」「技術」に偏ったサービスはときとして作業と受け取られることがある。気持ちや想い、配慮といった「マインド」が伴い、さらに「チームワーク」で業務に臨むという姿勢が重要である。様々な場面がつながってひとつの流れとなるサービスの美しさを追及する。				
<b>2. 授業内容 (週単位で記入)</b>					
第1週	学生レストランの取り組みについて				
第2週	テーマ・コンセプト決め				
第3週	メニュー・価格決め(原価計算)				
第4週	役割決め マネージャー1、キャプテン1、サービス3、バー2、レセプション2、カメラ(メイキング)2、ロビー受付(広報)1、ベル1、ドア(駐車場)1、購買1(キッチン)、キッチン3、デシャップ1、スチュワード3				
第5週	役割ごとの打ち合わせ、練習				
第6週	打ち合わせ、練習				
第7週	リハーサル				
第8週	学生レストランオープン(2月11日建国記念日)				
第9週	反省会、引継書類作成				
<b>3. 履修上の注意</b>					
授業終了前10分は片づけ、清掃業務にあてる。 グラス・食器の拭き上げ作業などはお客様へ直接的なサービスではないが、衛生面においても重要な仕事であるため、評価基準とする。また、レストラン業務はチームワークが必須であることから、協調性をもって授業に取り組む姿勢が必要である。					
<b>4. 使用教材(テキスト等)</b>					
制服着用					
<b>5. 単位認定評価方法</b>					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
<b>6. その他</b>					
実習に使用する備品(グラス・食器など)を破損した場合は、始末書の提出が必要になる。 担当者実務経験：五つ星ホテルのメインダイニング・サービススタッフ、海外・都内でレストランサービスの経験がある教員が、基本動作を正しく身に付けさせながら、現場での体験や事例を交えて技術指導をする科目である。					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 ＜専攻＞	ブライダル・ホテル学科		担当者	百瀬 久美子	
科目名	総合実習4(TOEIC対策)		必修・選択(注記)	選択必修	
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2年次
総授業数(予定)	17コマ	授業場所	校内・普通教室	前・後期	後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	総合演習4でも、効果的・効率的にスコアアップが図れるよう問題に対する理解を深める。入学当初のTOEICスコアを測定し、個々のレベルを200点上げる。(総合演習4まで履修した後の目標) また、英語音声は発音できないとうまく聞き取れないため発音練習を徹底して行う。				
◆概要	TOEICは英語圏で国際コミュニケーションをする上で必要な英語力を測定するための試験で、進学・就職・転職・昇進・留学など様々な場面での判断基準として適用されている。試験はリスニングとリーディングの2つのセクションで構成され、どちらも単語の基礎がないとうまく解くことはできないため、TOEIC頻出単語を徹底的に学習し、発声学に基づいて発音練習を行う。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週	TOEICとは 単語帳の使い方について 英語レベルチェックテスト				
第2週	●単語チェック、TOEICサンプルテスト、自己採点				
第3週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第4週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 1 & Part. 5				
第5週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第6週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第7週	中間試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第8週	中間試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
第9週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 2 & Part. 5				
第10週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 5				
第11週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第12週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 3 & Part. 6				
第13週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第14週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第15週	●単語テスト ◎TOEIC Part. 4 & Part. 7				
第16週	期末試験：TOEIC模擬試験リスニングパート(45分)実施				
第17週	期末試験：TOEIC模擬試験リーディングパート(75分)実施				
3. 履修上の注意					
TOEICスコアを測定するため、総合演習1の第1週目に過去問題による試験を実施する。 また、総合演習2の終了時、総合演習4の終了時にそれぞれ以下の要領で試験を受験する。 希望者が10名以上の場合は、TOEIC・IPテストを校内で実施し、スコアを測定する。(¥4,155) 希望者が10名以下の場合は、TOEIC公開テストを外部で受験し、スコアを測定する。(¥5,725)					ま
4. 使用教材(テキスト等)					
TOEICTEST必ずでる単 スピードマスター<Jリサーチ出版>					
5. 単位認定評価方法					
評価基準：絶対評価					
・出席による評価 15% ・授業への取り組み(課題の提出・授業姿勢) 15%					
・課題発表(中間・期末) 70%					
6. その他					
選択授業のテキスト代金は補助活動費から精算せず、受講希望者より後日徴収します。(詳細後日) 総合演習3を履修していない学生も総合演習4から受講が可能。					総

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。

学科 <専攻>	ブライダル・ホテル学科	担当者	百瀬 久美子		
科目名	総合演習2	必修・選択	選択必修		
単位数	1単位	授業形態	講義・演習	年次	2
総授業数(予定)	20コマ	授業場所	教室・各実習室	前・後期	前後期
企業連携科目	実務経験のある教員等による授業科目				
1. 授業の到達目的と概要					
◆到達目標	一般教養や専門学習など社会で役立つ知識や技術を学ぶ。また、特別活動として、学校				
◆概要	クラス担任の指導によりホームルーム活動を行います。				
2. 授業内容 (週単位で記入)					
第1週 ～ 第38週	一般教養や学科別の専門知識技術の学習 学生の手引き、学生生活ルールの確認 クラス、学校行事及び計画 等				
3. 履修上の注意					
出席時間数等は授業内で指示します。					
4. 使用教材(テキスト等)					
学生の手引き等					
5. 単位認定評価方法					
評価基準: 絶対評価 出席時間、取り組みにより評価					
6. その他					

A4用紙で作成し最大2ページまでとする。